

全木連時報

8月25日(木曜日)
(第569号)〔毎月25日発行〕
平成17年(2005年)

発行所
社団法人 **全国木材組合連合会**
代表者 後藤隆一
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215
URL <http://www.zenmoku.jp>



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

プロ野球マスターズリーグが「木づかい応援団」に

大沢啓二議長に委嘱状を交付

七月二十日は全木連など木材関係団体にとって思わぬ「好日」となった。この日、島村宜伸農林水産大臣(当時)は大沢啓二氏(元日本ハム球団監督)を招き、同リーグを「木づかい応援団」として正式に委嘱する「委嘱状」を交付した。この種のイベントは農林水産省にとって極めて異例なこと。委嘱式には、前田直登林野庁長官、庄司橙太郎全木連会長、前川豊司木材総合情報センター理事長も同席した。委嘱式終了後、大沢氏はマスターズリーグ事務局長の一木良文氏らを伴い、林野庁長官室で木づかい運動などを話題に前田長官や庄司全木連会長らと、約三十分間にわたって和やかに懇談した。

プロ野球マスターズリーグを以て、大臣から委嘱状交付の趣旨を「木づかい応援団」に委嘱するた説明して、大沢氏に「委嘱状(別名のイベントは午前十一時五十分掲)が手渡された。

から開かれた。大臣室には、テレビ各社、一般紙、スポーツ紙、農林業界紙など四十社の報道関係者が押しかけ、カメラの放列が敷かれるなかで委嘱式が進められた。

島村大臣と大沢氏はゴルフなどを通じて親しい仲。この日もぎっくばらんに語り合った。報道陣にも笑い声が出る明るい雰囲気の中

第二幕は林野庁長官室での懇談会

大臣室での委嘱式終了後、林野庁長官室に場所を移し、大沢氏を

囲んで前田長官、庄司全木連会長ら関係者がカートカン入りの緑茶を飲みながら約四十分談笑した。前田長官や庄司会長は、地球温暖化防止の観点からも木づかい運動の展開が重要であること、そのための施策などについて分かり易く説明、これに対して大沢氏は、ユーモアをまじえながらコメントし、木づかいの必要性に理解を示した。大沢氏といえば、プロ野球界のご意見番として存在感のある大物選手時代はパリーグ南海での活躍が有名。その後日本ハムの監督として力量を発揮した。愛称は親分。TBSテレビ日曜日のサンデーモーニングでは張本勲氏(広島出身・巨人OB)とレギュラー出演してスポーツ番組を担当。あつぱれ「湯!」の決まり文句を歯切れよく連発して視聴者を魅了している。この日も大臣室・長官室で「あつぱれ」を繰り返した。

庄司会長と気さくに語り合う

庄司全木連会長は長官室での懇

目次
一 プロ野球マスターズリーグ
二 大沢議長に委嘱状を交付
三 木材産業研修会を開催
四 二日間にわたり幅広く研修
五 景況調査

談の場で大沢氏に「農林水産省が正式名称ですが、マスコミをはじめ「農水省」と呼ぶ人が多いので、大臣も自ら農林水産省とおっしゃっていますので、よろしくご理解を」とアピール。大沢氏も「そうだよなあ。林」が抜けたらおかしいよなあ」と相槌を打った。さらに庄司会長が「十月一、二日の両日に東京都木連主催の「木と暮らしのふれあい展」を開催しますので、ご都合よろしければご出席をお願いします」と来場を請うと、講演などともに用事が無ければなあ。出るよ」と、いつもの大沢節で答えてくれた。

観客数は30万人超

同リーグは発足から今年で五年目を迎える。毎年、オフシーズン(十一月～一月)に五大ドームを中心に全国で試合を開催し、全試合観客数は三十万人を超えている。基本理念は七項目で、この中には「地域社会の活性化と振興に貢献」が掲げられており、そのことに関



島村農林水産大臣(写真中央)から委嘱状を受けとる大沢啓二氏(左端)。その右に立ち合う庄司全木連会長。(大臣室にて)



前田林野庁長官(写真中央)、庄司全木連会長(1人おいて左)と懇談する大沢啓二氏(中央右側)。(林野庁長官室にて)

連付けて地域材利用をアピールする「木づかい運動応援団」に委嘱することが「適当と判断した」(林野庁木材課)という。
木材課によると、イメージキャラクターとしてのマスターズリーグが展開する「木づかい運動」の具体的内容については、リーグ事務局との間で協議していく。例えば、農林水産省のポスターモデル各種PRイベントへのゲスト出演、公式戦や少年野球教室でのPRファン向けグッズへ木づかいメッセージ掲載——などを行う予定。試合場(ドーム)の電光掲示板なども利用していきたいとの考えだ。

一方、欽ちゃん球団との関係については、萩本欽一氏がマスターズリーグ委員(広報担当)をしていることから、木づかい応援団活動の一環として協力してくれるという。
【マスターズリーグの概要】
チーム数・大会形式
五チームによるリーグ戦。参加チームは、札幌アンビシャス、東京ドリームス、名古屋エイティン、ダイザース、大阪ロマンズ、福岡ドンタクズ。チーム編成は原則四十歳以上のプロ野球OBで約二百人が名を連ねている。協力は全国野球振興会、自民党、OISC A、ピーター子供基金、全日本ろうつ社、会人軟式野球連盟。

組織
議長・大沢啓二 委員・土井淳(試合進行)、岡田功(ルール担当)、佐々木信也(普及推進)、渡辺純一(放送担当)、萩本欽一(広報担当)、渡辺謙太郎(実況担当)、一木良文(運営担当)、リーグ事務局(長)
球団監督と主な選手
札幌〃古葉竹識監督、土井正三、石毛宏典、東京〃土橋正幸監督、村田兆治、江夏豊、名古屋〃中利夫監督、高木守道、大島康徳、大阪〃吉田義男監督、山田久志、川藤幸三、福岡〃稲尾和久監督、中西太、東尾修
(敬称略)

「委嘱状」
プロ野球マスターズリーグ殿
貴殿を木づかい運動の推進に向けたイメージキャラクター・「木づかい応援団」に委嘱する
委嘱期間は平成二十年三月三十一日までとする
平成十七年七月二十日
農林水産大臣 島村宣伸

今年の全国木材産業振興大会
10月19日に石川県で開催
全木連・全木協連が主催する第四十回全国木材産業振興大会は、十月十九日に石川県立音楽堂で、北陸支部の担当により開催する。第一部大会議事。この中でシンポジウムを行う。第二部表彰式。第三部郷土芸能披露。第四部懇親会の構成。
全国から九百名の参加を期待している。
事務局からお知らせ
技術主幹の久田卓興は、七月三十一日付で退職しました(森林総合研究所理事に就任)。

企業経営に安心を提供します
全木連グループの各種共済制度
おかげさまで30年
中型グループ共済

従業員のために	中型グループ	施設賠償 PL共済	第三者への事故対策に
経営者のために	大型 L型 無配当型	各総合保障 プラン	従業員の退職金の準備に
		木退共	経営者の退職金などの準備に
		積立終身	

ケガ・病氣入院
などの備えに

全国木材協同組合連合会
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3
TEL 03-3580-3215(代)

木材産業研修会を開催

二日間にわたり幅広く研修

全木連・全木協連は、七月二十八、二十九日の二日間にわたり、愛知県名古屋市の名古屋木材会館で「木材産業研修会」を開催した。各都道府県木連の事務局の常勤役員ら約六十名が参加した。研修内容は、協同組合組織の再編・強化、協同組合会計の要点、木材製品自主表示（ラベリング）制度の普及、消費地の木材産業の展望、木材産業の廃棄物の適正処理と木質バイオマスの利用推進、経営者の危機管理、愛知万博における施設の木造化、愛知万博における地域材利用の取組、地域材の利用推進について――の九項目。それぞれ担当の講師から講義を受け、予定通り終了した。

今年度の研修会は愛知万博の開催期間にあわせての実施。万博会場施設に木材利用事例が多いため、研修終了翌日の土曜日に参加者が見学できるように便宜を図ったもの。二十九、三十日には、全木連が実施主体の「森を育む木の住まい普及推進事業」の一環で日本木青連が万博会場に出展し、森林教室など普及啓発活動を行った。

協同組合組織の再編・強化について

講師はみずほ情報総研の江淵弓浩氏。各地域、各業種とも中小企業組合は、組合員の減少、組合事業の低迷を迎えているが、木材業

界は特にその観が強く、そこに焦点を合わせての講義となった。内容はみずほ情報総研が過去に行った組合活動に関する調査結果を踏まえたもの。興味深いのは、現状に問題を感じながらも、現状維持の指向が強いこと。これは企業ではありえない組合特有の傾向と思われるので、その取り組みのポイントや目標を明確にすることから始めなければならぬわけではなから材料もそこに見出せるのではないかと感じられた。

協同組合会計の要点

講師は清水会計事務所の清水英文氏。清水氏は組合会計の特色と留意点として、「応益負担」「予算会

計制度」など八項目について説明し、注意すべきポイントを示すとともに、会計処理の実務上の手続について、教育情報費用繰越金の処理「海外渡航費の取扱い」など十一項目の例を挙げて解説し、組合会計の要点を講義した。

協同組合の会計自体は難しいものではないが、企業会計とは異なる点も多い。研修会参加者には、協同組合のベテランも多い反面、今年新しく参加された方も多い。また、日頃、各県木協連の担当者から全木協連に会計処理についての問い合わせが多いことを考慮して、あえて今回、講義科目にしたものである。

木材製品自主表示（ラベリング）制度の普及

講師は木材表示推進協議会会長の岡野健氏。この制度については、従前より何回か研修の場をもったが、協議会が四月に発足してからは初めてのことに。

岡野氏は制度全般の概要と普及に際しての要点を具体例にあてはめて解説した。特に、外材については、なじみの薄い樹種などが広く使われている現状から、その表示の必要性について強調した。

消費地の木材産業の展望

講師は東海木材相互市場社長の鈴木和雄氏。鈴木氏は同市場統合の背景を説明する中で需給構造の変化を概説。また、レコードからCDへと機能が変わったことで、いくら商品が良くてもレコード針

が売れなくなる運命にあることを例に挙げ、枕木、電柱、木型、リソゴ箱、天井板も木材から離れていく現状にあると指摘。一方で、木材の機能性を求めていく方向はあるとした。

さらに「今、最も重要な問題は木材価格の下落であって、これは、外材に頼ってきた結果である。家は土地とともに動き、家は産業のある所に建つ。蜂と花の関係のように商売は客の商売を成り立たせるものでなければならぬ。産地であれ、都市部であれ、商売は、あるがままに行うことが必要なのではないか」と自説を披露した。

木材産業の廃棄物の適正処理と木質バイオマスの利用推進

講師はイオリナ社長の村上泰司氏。村上氏は本論に入る前に住宅産業の現状について一節、木材にこだわった住宅を求める人はレアケースであり、レアケースを増やしていくことは難しい。結論的に、木造住宅は理屈で負けていると厳しく指摘し、現状を解説した。

本論の廃棄物処理については、規制が厳しくなるなかで注意すべきことを具体的に説明するとともに、不法投棄の現状やバイオマスの利用促進の問題点についてわかり易く説明した。

経営者の危機管理

講師はAIEU保険会社のコンサルタント・マネージャー佐藤薫氏。佐藤氏は災害コストを常に意識して、事故を危機にしない努力が経

営者に求められるとし、事故を完全に防ぐことは難しいが、危機を止めることはできると説明した。このテーマは、前述の産地表示の誤表示などを想定して、講義に加えたもの。

愛知万博における施設の木造化

講師は名古屋大学大学院生命農学研究科教授の土川覚氏。土川氏は会場施設全般について詳しく紹介するとともに、木材学会五十年記念事業として、万博に自然体験プログラムで参画した報告、参観者の反応などを説明した。

愛知万博における地域材利用の取り組み

講師は愛知県林務課の山本剛久氏。前項の講義に続くものであり、地域材の利用に焦点を絞って説明。地域材利用のための募金の実施や、木材リサイクル資材の利用と結果など、取組みの報告や運用上の問題などを交えながら解説した。

地域材の利用推進

全木連より、違法伐採問題についての国内対応、森林活性化協議会の座長報告、木づかい運動の展開について解説した。

その他、講義の合間の昼休み時間、講義終了後の時間を利用して次の報告事項を説明して研修会を終了した。

第四十回全国木材産業振興大会への参加要請、JAS制度改正に伴う全木連（検査部）組織の見直し、公益法人制度改正の動き、住宅政策に対するパブリックコメントの対応について。

が売れなくなる運命にあることを例に挙げ、枕木、電柱、木型、リソゴ箱、天井板も木材から離れていく現状にあると指摘。一方で、木材の機能性を求めていく方向はあるとした。

さらに「今、最も重要な問題は木材価格の下落であって、これは、外材に頼ってきた結果である。家は土地とともに動き、家は産業のある所に建つ。蜂と花の関係のように商売は客の商売を成り立たせるものでなければならぬ。産地であれ、都市部であれ、商売は、あるがままに行うことが必要なのではないか」と自説を披露した。

木材産業の廃棄物の適正処理と木質バイオマスの利用推進

講師はイオリナ社長の村上泰司氏。村上氏は本論に入る前に住宅産業の現状について一節、木材にこだわった住宅を求める人はレアケースであり、レアケースを増やしていくことは難しい。結論的に、木造住宅は理屈で負けていると厳しく指摘し、現状を解説した。

本論の廃棄物処理については、規制が厳しくなるなかで注意すべきことを具体的に説明するとともに、不法投棄の現状やバイオマスの利用促進の問題点についてわかり易く説明した。

経営者の危機管理

講師はAIEU保険会社のコンサルタント・マネージャー佐藤薫氏。佐藤氏は災害コストを常に意識して、事故を危機にしない努力が経

景況調査 = 全木協

7月分集計表 ()内は実数

【流通部門】 モニター数93 回答数68 回収率73%

当月の状況

販売量	増加22% (15)	変わらず60% (41)	減少18% (12)
仕入量	増加16% (11)	変わらず62% (42)	減少22% (15)
販売価格	上昇1% (1)	変わらず90% (61)	下降9% (6)
仕入価格	上昇9% (6)	変わらず82% (56)	下降9% (6)

来月の見通し

販売量	増加16% (11)	変わらず60% (41)	減少24% (16)
仕入量	増加10% (7)	変わらず65% (44)	減少25% (17)
販売価格	上昇4% (3)	変わらず89% (60)	下降7% (5)
仕入価格	上昇10% (7)	変わらず83% (56)	下降7% (5)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	22% (13)	75% (43)	3% (2)
南洋材	14% (7)	80% (40)	6% (3)
北洋材	13% (7)	75% (39)	12% (6)
国産材	5% (3)	76% (43)	19% (11)
建材	- % (-)	- % (-)	- % (-)

乾燥材取引の頻度	増加 34% (21)	変わらず 66% (41)	減少 0% (0)
----------	----------------	------------------	--------------

【製造部門】 モニター数98 回答数73 回収率74%

当月の状況

販売量	増加39% (28)	変わらず49% (35)	減少12% (9)
仕入量	増加29% (21)	変わらず36% (26)	減少35% (25)
販売価格	上昇1% (1)	変わらず88% (63)	下降11% (8)
仕入価格	上昇15% (11)	変わらず65% (47)	下降20% (14)

来月の見通し

販売量	増加17% (12)	変わらず60% (43)	減少23% (17)
仕入量	増加12% (9)	変わらず63% (45)	減少25% (18)
販売価格	上昇1% (1)	変わらず93% (67)	下降6% (4)
仕入価格	上昇10% (7)	変わらず83% (60)	下降7% (5)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	17% (6)	77% (27)	6% (2)
南洋材	12% (3)	80% (20)	8% (2)
北洋材	17% (6)	78% (28)	5% (2)
国産材	16% (9)	61% (34)	23% (13)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内 50% (11)	1ヵ月 41% (9)	1ヵ月以上 9% (2)
---------------	-------------------	----------------	-----------------



平成18年(二〇〇六年)版
木材PR用カレンダー
予約受付中

- ・ 1社100部単位にて、ご予約受け付けます。
- ・ ご希望のとおりに社名印刷してお届けします。(社名印刷はサービスいたします)
- ・ 1部700円(社名印刷が昨年と同じ場合は1部680円に引き下げます)。消費税別。
- ・ サイズ 364X515 mm
- ・ お申し込みは、全木連(03-3580-3215)まで

“ 求む ” 長崎県職員

(民間企業の経験を県庁で活かしてみませんか！)

【受験資格】

昭和36年4月2日から昭和46年4月1日までに生まれた方
民間企業等における実務経験
(木材流通・加工関係企業等)が10年以上ある方
日本国籍を有する者

【受付期間】

昭和17年8月1日(月)～平成17年9月30日(金)
詳しくは「長崎県のホームページ」
平成17年度長崎県職員採用選考試験
<http://www.pref.nagasaki.jp/jinji/saiyou/>
にアクセスして下さい。

林業・木材産業発展のために

お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

平成16年6月からスタート!

「グリーンサポート3000」

一定の要件を満たした保証申込みに
スピーディに応える無担保保証です。

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階

TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595

URL <http://www.affcf.com/forestry>